

東北地方への文献寄贈のご報告

山崎 健 (奈良文化財研究所)

2011年3月の東日本大震災によって、岩手県の陸前高田市立博物館では貴重な標本とともに、多くの所蔵図書が失われました。現在は旧生出小学校で、被災資料の安定化処理や修復作業が続けられています。また、同じく甚大な被害のあった岩手県宮古市では、国指定史跡の崎山貝塚を中心とした崎山貝塚縄文の森ミュージアムが2016年7月に新たに開館し、これからの研究拠点として期待されます。ともに、三陸海岸の貴重な貝塚が数多く分布する地域です。

日本動物考古学会の会員であり、動物遺存体の調査・研究を進められてきた陸前高田市の熊谷賢さんと宮古市の高橋憲太郎さんから、「動物考古学に関連する文献や書籍を寄贈していただくことはできないだろうか」とのご相談をいただきました。そこで日本動物考古学会では、総会や郵便、学会のホームページにおいて、会員の皆様へ動物考古学に関連する論文の別刷やコピー、発掘調査報告書といった文献寄贈のご協力をお願いいたしました。

その結果、2017年2月末段階で、合計1,255点という非常に多くの文献が集まりました。数多くの会員の皆様とともに、この文献寄贈の話聞いた会員以外の方々からも、貴重な文献を送っていただきました。ご協力いただいた皆様に、心より厚くお礼申し上げます。

寄贈いただいた文献は、各博物館で管理がしやすいように目録を作成し、整理した上で、送付いたしました。「少し遅れてしまうかもしれないが、ぜひ文献寄贈に協力したい」というご連絡もありました。引き続き、対応したいと思いますので、今後ともお気軽にご相談いただけますと幸いです。

今回、日本動物考古学会が実施した文献寄贈の取り組みは、学会という専門性を活かした支援事例の1つになるのではないかと思います。東日本大震災から6年が経過しました。変化していくニーズに対応して、継続的な支援活動が求められています。今後ともご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

